



Mobility



Healthcare



Food & Packaging



Basic Materials

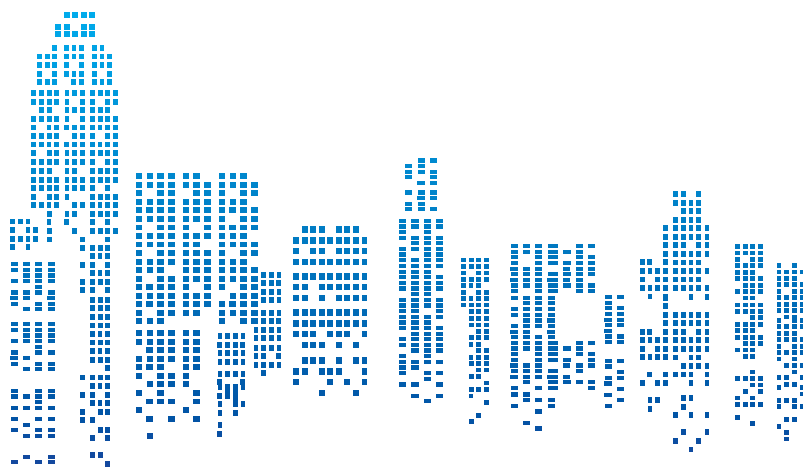


Mitsui Chemicals

# 株主の皆様へ

## 第17期報告

2013年4月1日～2014年3月31日



特集：新たな顧客価値の創造

— 2014年度新中期経営計画 —

### CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 5 特集：新たな顧客価値の創造
- 7 セグメント別概況
- 9 トピックス
- 10 連結財務諸表
- 11 会社の概況・株式の状況／株式事務のお知らせ

**三井化学株式会社**

## 新たな中期経営計画の下、 早期の収益回復を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2013年度の当社グループは、円安の進行、海外での需要の拡大やこれまで注力してきた機能製品事業の拡大などにより前年度比6倍となる249億円の営業利益を計上することができました。一方で、アジア需給の悪化などを背景に苦戦を強いられていた大型市況製品では抜本的構造改革の実施を前倒して決定し、大幅な特別損失を計上した結果、当期純損益は251億円の損失と厳しいものとなりました。これを受けて、誠に遺憾ながら、当期末の配当は見送ることと致しました。大型市況製品の構造改革は痛みを伴う決断となりましたが、「新生」三井化学の創生に向けての布石は打つことができましたと考えております。

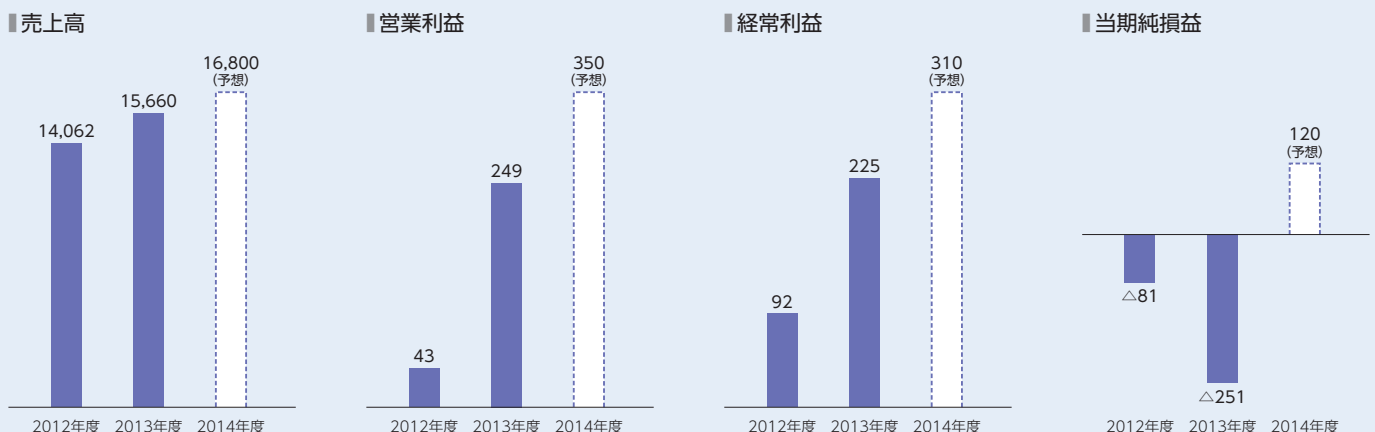
2014年度からは当社グループの将来像を含めた新しい中期経営計画がスタート致します。この中期経営計画においては、当社が事業活動を通じて解決に向け貢献すべき社会課題を明確に意識し、それに向けた事業ポートフォリオへの転換を図ってまいります。

当社を取り巻く環境は依然として不透明な状況が続いておりますが、安全・安定運転の確保はもとより、機能製品の更なる収益の拡大、抜本的構造改革の確実な実行等により、V字回復を達成し、早期の復配を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 淡輪 敏



### ■ 財務ハイライト(連結) (単位:億円)



Q.1

初めに2013年度の業績について聞かせてください。

A.1

売上高は1兆5,660億円、営業利益は249億円と前年度に比べ増収・増益となりましたが、当期純損失は251億円と厳しい結果となりました。

2013年度におきましては、当社が2011年度中期経営計画において経営資源を集中してきた機能製品事業が着実に収益を拡大する一方、懸案の大型市況製品の抜本的構造改革を前倒しで決定致しました。

機能製品事業においては、メガネレンズ材料、歯科材料、高機能不織布、農薬等の高機能製品群と自動車向けのポリプロピレン(PP)コンパウンド、エラストマー、高性能ポリエチレン等の高付加価値ポリマー群が、円安効果や海外の需要拡大等を背景に順調に収益を拡大しております。特にPPコンパウンドは、世界供給体制の拡充により確実に収益を拡大しております。

一方、ウレタン、フェノール、高純度テレフタル酸の大型市況製品に関しては、従来から収益の回復に鋭意取り組んでまいりましたものの、2013年度は残念ながら、予定していた収益の回復には至らず機能製品事業の躍進による増益分を減殺してしまう結果となりました。こういった状況に鑑み、プラント停止や工場の閉鎖を含めた更なる抜本的構造改革の断行を前倒しで決定し、他の事業に関する分も含めて事業再構築費用368億円を計上致しました。大変な痛みを伴う経営決断となりましたが、一刻も早く生産体制を最適なものに再構築し、収益力を回復させ、将来の躍進に繋げる所存です。

以上より、業績としては、売上高は前年度比11.4%増の1兆5,660億円、営業利益は同6倍の249億円に増加しておりますが、前述の事業再構築費用を計上したこと等により、当期純損益251億円の損失という厳しい状況になりました。これを受けて、誠に遺憾ではございますが、当期末の配当につきましては、見送りと致しました。

Q.2

2011年度からの中期経営計画は2013年度が最終年度でした。その成果を総括してください。

A.2

機能製品事業は順調に拡大する一方、景気の減速を受け大型市況製品の業績が大幅に悪化しました。

2011年度中期経営計画においては、景気変動を受け難い事業ポートフォリオへの変革を謳う中で、付加価値の高い機能製品事業を着実に強化・拡大してまいりました。

### ▶ 高機能製品群

メガネレンズ材料において、スイスAcomon社、韓国KOC Solution社を買収することで汎用品から屈折

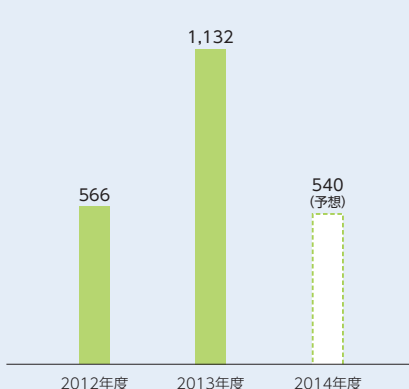


開発を進める3Dプリンターを用いた入れ歯

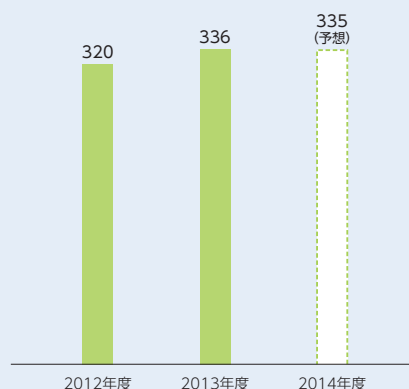
率の高い高付加価値品まで幅広いレンジのメガネレンズ材料を取り揃える他、子会社であるSDC社の拠点をシンガポールに新設することで表面コーティングによる豊富なアプリケーション提供の体制も強化しました。歯科材料では、世界第6位のドイツHeraeus社の歯科材料事業、3Dプリンターを用いた入れ歯の開発を行っている米国DENTCA社

### ■ 主要指標(連結) (単位:億円)

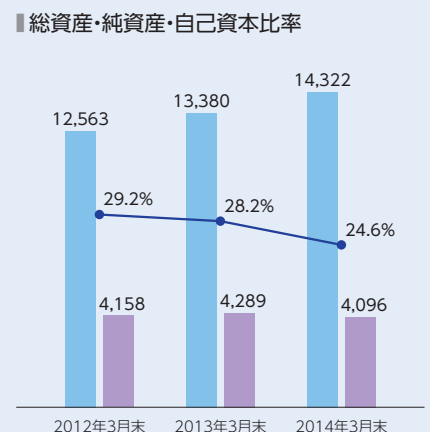
#### ■ 設備投資額



#### ■ 研究開発費



#### ■ 総資産・純資産・自己資本比率



\*金額は億円未満四捨五入により表示しております。



を買収し、従来国内中心に行ってきた歯科材料事業や当社の有するポリマー技術とのシナジー効果を上げるべく取り組んでおります。衛生用の高性能不織布では、中国(天津)での新規製造設備が営業運転を開始し、アジアにおける3極体制が整いましたので、アジアトップメーカーとしての地位を強固なものにしていきます。また、農薬では、タイ、ブラジルの農薬会社への資本参加や、タイにおける製剤研究拠点設置により、成長が見込まれるアジアや南米での販売拡大を推進しています。

### ▶高付加価値ポリマー群

PPコンパウンドで、ブラジルに製造・販売会社を設けたほか、自動車需要の拡大を背景に北米・メキシコ等で相次いで増強を行い、2014年度末には世界トップの100万トン体制となります。エラストマーでは、シンガポールにおいてプラスチックの耐衝撃性を向上させる「タフマー®」の生産能力の増強を行った他、中国において自動車向け高性能ゴムEPTや接着性樹脂「アドマー®」の製造設備の建設を進めています。また、シンガポールにおいて強度・透明性に優れた



T.U.X®の製造工場(タイ)

高性能ポリエチレン「エボリュー®」の新鋭大型設備の建設も進めているほか、エボリューを用いた包装フィルム「T.U.X®」の製造設備をタイに新設致しました。

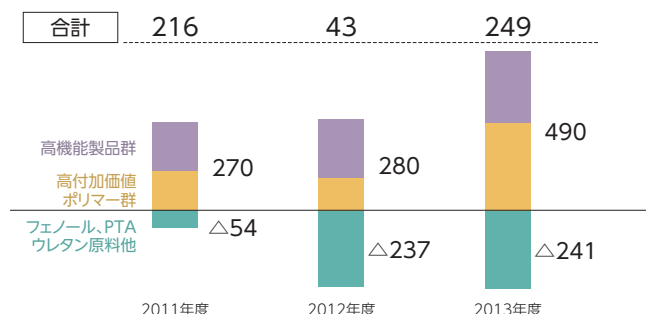
### ▶大型市況製品

中国を中心としたアジアでの需給の悪化、それによる市況の低迷などにより、業績が大幅に悪化しました。こうした状況を受けて、当社は、前述のとおり、プラント停止や工場閉鎖を含めた抜本的構造改革の断行に踏み切りました。なお、石化の構造改革については順調に取り組んでおり、京葉エチレンからの離脱を決定し、市原工場のポリエチレン製造設備(2系列)、ポリプロピレン製造設備(1系列)の停止を取り進めました。

以上のとおり、機能製品事業に関しては十分な成果と将来への種蒔きができたと見え、こうした成長投資による成果が2014年度以降、収益に大きく寄与してくる見込みです。また、大型市況製品では、痛みは伴いますが、抜本的な対策

を決断致しました。事業ポートフォリオの変革は大きく進捗しており、2014年度以降に成果を結実させるべく、新しい中期経営計画の中で更に推進してまいります。

### ■事業ポートフォリオの推移 (営業利益/単位:億円)



Q.3

その新中期経営計画に関して、経営方針や意気込みをご説明ください。

A.3

事業ポートフォリオ変革に向けた組織横断的な取り組みにより、事業活動を通じた社会貢献を実現します。

当社を取り巻く事業環境の変化はますます激化しており、数年後の状況予測も容易ではありません。そのため、組織横断的な大きな括りで事業の基本戦略を策定し、環境変化に柔軟に対応していく必要があります。また持続的な収益拡大に向けた事業ポートフォリオの転換にあたっては、最終消費者の使用価値をより意識した最適なソリューション提供が重要になってくると考えています。2014年度を初年度とする新中期経営計画は、こうした点を念頭に置いて策定致しました。

まず、当社グループの目指すべき将来像を設定致しました。具体的には、当社グループが貢献すべき社会課題を、“環境と調和した共生社会の実現”“健康・安心な長寿社会の実現”“地域と調和した産業基盤の実現”と捉え、経済軸と環境軸・社会軸が結びついた社会課題への取り組みにより、事業活動を通じた社会貢献を目指します。また、自動車材料を中心とした「モビリティ」、メガネレンズモノマー、歯科材料、不織布等の「ヘルスケア」、食品包材、農薬等の「フード&パッケージング」の各領域を成長のターゲット事業領域と定め、集中的な拡大を図るとともに、石化・基礎化学品を中心とした汎用化学品は、社会・産業を支える「基盤素材」領域として展開していきます。これにより、2020年近傍には、連結営業利益1,000億円、連結純利益500億円を目指します。

また、2014年度から2016年度の3ヶ年においては、次の方針の下、連結営業利益600億円、連結純利益300億円を目指します。

- 大型市況製品の再構築の確実な実行による収益力の回復を図る。
- 2011年度中期経営計画で具体化、実行した成長投資を確実に収益拡大へ繋げる。
- 事業ポートフォリオ変革に向け、経営資源をモビリティ、ヘルスケア及びフード&パッケージング領域に集中する。
- 新事業・新製品創出を加速する。
- 財務体質の改善、強化を図る。

**Q.4** では、その新中期経営計画初年度となる2014年度について、連結の業績見通しをお聞かせください。

**A.4** 売上高1兆6,800億円、営業利益350億円、純利益120億円を計画しています。

2014年度の事業環境は、新興国の景気減速懸念等に加え、国内でも消費税増税の影響が懸念されるなど、依然として不透明な状況が継続することが予想されます。このような状況の中、2014年度の業績につきましては、売上高は前年度比7.3%増の1兆6,800億円、営業利益は同41%増の350億円と予想しています。中期経営計画の初年度でもある本年度におきましては、安全・安定運転の確保を大前提とし、これまでの成長投資の成果を結実させ、モビリティ、ヘルスケア及びフード&パッケージング領域を中心に機能製品の収益を迅速に拡大させるとともに、大型市況製品の構造改革を着実に実行し、収益の早期回復を図ってまいります。株主の皆様に対する配当につきましても、中間期は厳しいものの期末には3円の配当が実施できるよう取り組んでまいります。

**Q.5**

最後に、株主の皆様へのメッセージをお願い致します。

**A.5**

新中計を推進し企業価値を増大させてまいります。

2014年度は何としてもこの構造改革の成果を確実に上げ、黒字化及び復配を実現しなければなりません。同時に、新中期経営計画がスタートする本年度は、間違いなく当社にとって大きな挑戦の始まりとなります。事業環境は依然厳しく、越えなければならないハードルはまだ山積しておりますが、これら試練は必ずや当社企業価値を増大させるチャンスになると確信しております。私自身が三井化学グループの先頭に立ち、総力を挙げて、厳しい状況を乗り越えるべく全力で取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 代表取締役社長 淡輪 敏(たんのわ つとむ)の横顔



### 略歴

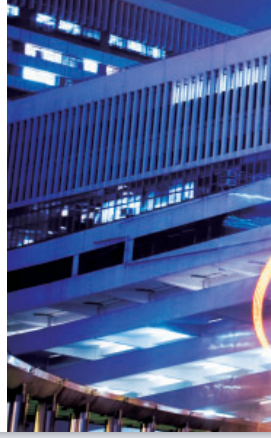
- 1976年 4月 入社
- 2005年 6月 工業薬品事業部長
- 2007年 4月 執行役員 人事・労制部長
- 2010年 4月 常務執行役員 基礎化学品事業本部長
- 2012年 6月 取締役常務執行役員
- 2013年 4月 取締役専務執行役員
- 2014年 4月 代表取締役社長執行役員

入社当初は大阪工場製品受払調整業務を担当。その後、主に人事、事業セクションを歩む(工場勤務は通算で約10年間)。入社5年目にはコンビナート建設プロジェクトの管理業務担当者としてアルジェリアに赴任。初めての海外勤務で海外でのコミュニケーションの難しさや世界の広さを実感するなど国際感覚を磨いた。福岡県出身。趣味はテニスと囲碁。余暇は、愛犬の散歩やゴルフ練習でリフレッシュしている。

# 新たな顧客価値の創造

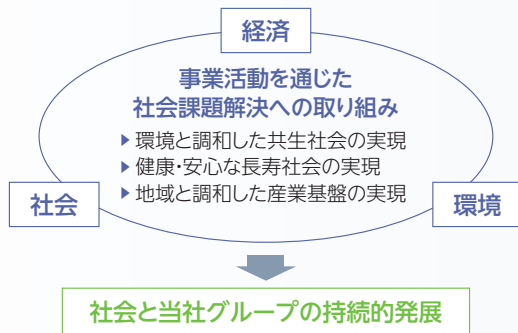
## — 2014年度新中期経営計画 —

当社グループの将来像を設定し、そこに向けた最初のステップとして3ヶ年の中期経営計画を策定致しました。



# 1 当社グループの将来像

経済軸と環境軸・社会軸が結びついた社会課題解決への取り組みにより、事業活動を通じた社会貢献を目指すため、当社グループは右図の領域で事業展開を図ります。



### 成長のターゲット事業領域

#### モビリティ

主な事業

- PPコンパウンド
- エラストマー
- コーティング・機能材
- 機能性コンパウンド
- 機能性ポリマー



#### ヘルスケア

主な事業

- メガネレンズ材料
- 歯科材料
- メディカル材料
- 不織布



# 2 2014年度中期経営計画

### 基本戦略

使命

総合力を駆使した  
堅実な利益成長

方向性

グループ横断的な  
ソリューション提供

方策

- ▶ 強い顧客基盤を有する自動車材を中心とした会社・組織の枠を超えた情報・技術・顧客関係の最大活用
- ▶ 当社が貢献しうる顧客価値を起点とした新事業創出

新たな  
成長基盤の確立

周辺・川下展開と  
ブランド創造

- ▶ 製品開発力を活かしたビジョンケア、オーラルケア領域の周辺・川下展開
- ▶ ポリマーサイエンスに基づく機能創出力による五感五体分野での新事業創出

### 中計方針

- 大型市況製品の再構築の確実な実行により収益力の回復を図る。
- 2011年度中期経営計画で具体化、実行した成長投資を確実に収益拡大へ繋げる。
- 事業ポートフォリオ変革に向け、経営資源をモビリティ、ヘルスケア及びフード&パッケージング領域に集中する。
- 新事業・新製品創出を加速する。
- 財務体質の改善、強化を図る。





社会・産業を支える事業領域

### フード&パッケージング

主な事業

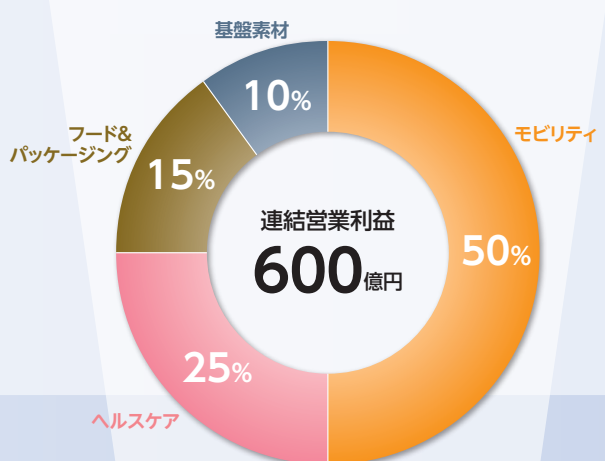
- エボリュー®
- フィルム・シート
- 農薬

### 基盤素材

主な事業

- オレフィン
- 汎用ポリオレフィン
- 基礎化学品
- ポリウレタン材料
- 精密化学品

**2020年近傍**  
 連結営業利益 **1,000** 億円  
 連結当期純利益 **500** 億円  
 ROA(総資産営業利益率) **6%**



**2016年度** 2016年度の経営目標  
 連結営業利益 **600** 億円  
 連結当期純利益 **300** 億円  
 ROA(総資産営業利益率) **4%**以上

### 第3の柱に向けた事業機会の獲得

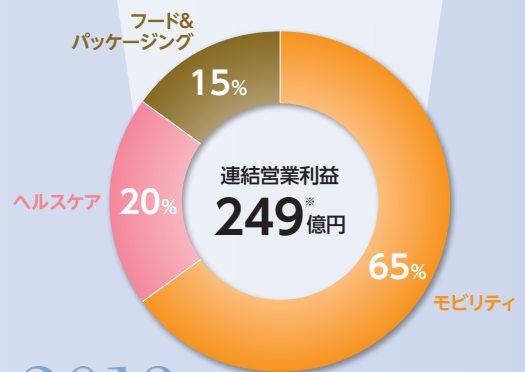
成長するアジアでのマーケットイン型ビジネスモデルの構築

- ▶ 多様な製品群を有するフィルム・シート関連事業での会社・組織の枠を超えた情報・技術・顧客関係の最大活用
- ▶ 当社技術の活用によるフード・ソリューションの提供

### 再構築による安定収益の確保

全社最適を踏まえたコスト競争力強化

- ▶ 最適生産体制による地産地消型事業への早期転換(生産集約、プラント停止、売却等)
- ▶ 地域有力パートナーとの連携強化による収益力の向上(原料、用役、販売等)
- ▶ 蓄積技術・人材を活用した成長事業拡大支援



**2013年度** ※円グラフの割合表示では基盤素材を除く

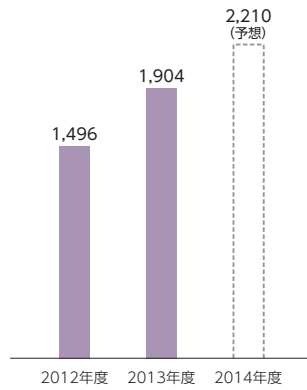
# セグメント別概況

## 機能化学品

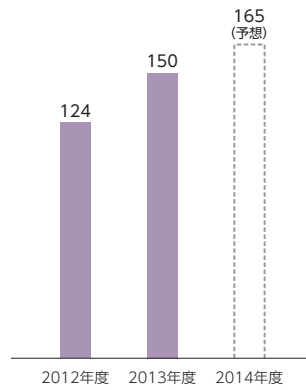
12%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



### 主な事業

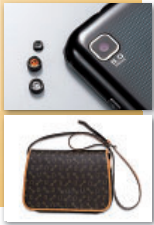
- ヘルスケア材料
- 特殊ガス
- 触媒
- 衛生材料
- 化成品
- 農薬

### 概況

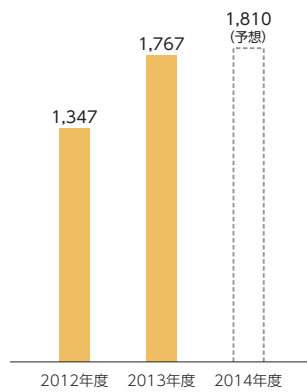
ヘルスケア材料のメガネレンズ用材料、衛生材料の不織布、農薬等が、海外の需要拡大等を受けて販売を拡大し、好調に推移しました。触媒についても、2012年度に発生した岩国大竹工場事故による生産停止の影響から脱したことにより、販売が拡大しました。なお、2013年6月30日付でドイツのHeraeus Holding GmbHより譲受した同社の歯科材料事業は半期分の業績を計上しています。

## 機能樹脂

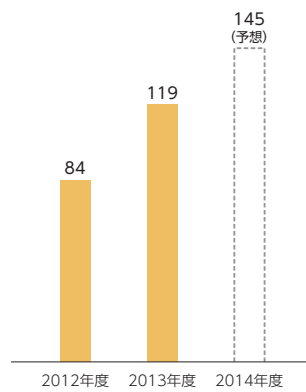
11%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



### 主な事業

- エラストマー
- 機能性コンパウンド
- 特殊ポリオレフィン

### 概況

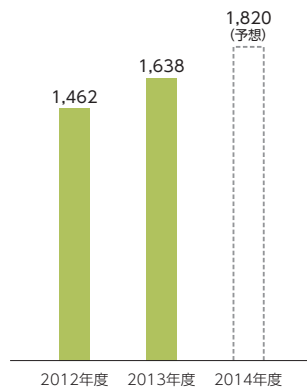
自動車部品及び樹脂改質材用途を中心とするエラストマーや機能性コンパウンド製品が、円安効果及び北米を中心とする自動車用途の需要拡大に的確に対応したことにより収益を拡大しました。また、特殊ポリオレフィンについても、岩国大竹工場事故の影響からの回復、スマートフォン向け販売の拡大及び円安効果により、収益を拡大しました。

## ウレタン

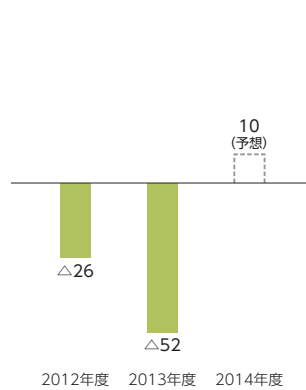
11%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



### 主な事業

- ポリウレタン材料
- コーティング材料
- 接着材料
- 成形材料

### 概況

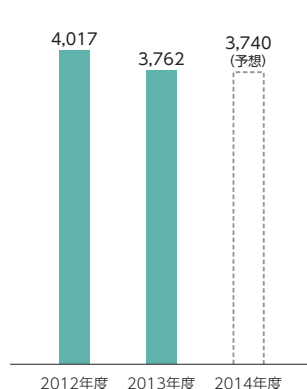
接着材料は、海外での包装用接着剤の堅調な需要拡大及び有機EL用接着剤の新規販売開始により収益を拡大しております。一方、ポリウレタン材料は、主要用途である家具向けの低調、依然として低迷する中国市況、原燃料価格の上昇により、厳しい状況が続いております。

## 基礎化学品

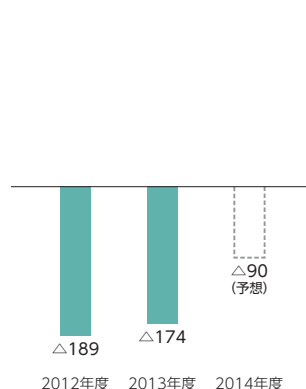
24%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



### 主な事業

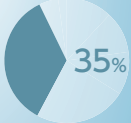
- フェノール
- ビスフェノールA
- 高純度テレフタル酸 (PTA)
- ペット樹脂
- エチレンオキシド及びその誘導品

### 概況

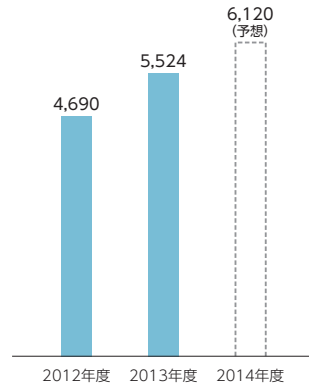
依然として、フェノール、高純度テレフタル酸等が、需要の回復遅れ及び中国市況の低迷を背景に厳しい状況が続いております。



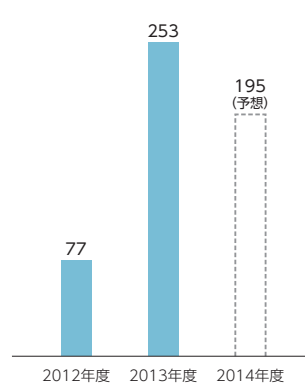
## 石化



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



### 主な事業

- エチレン及びプロピレン
- ポリエチレン
- ポリプロピレン

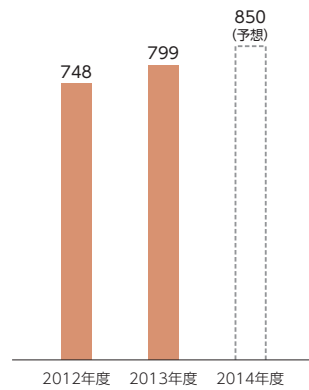
### 概況

ナフサクラッカーが当初予想の稼働率を上回って稼働したほか、北米の自動車生産台数の増加等により、海外事業の収益が拡大しております。

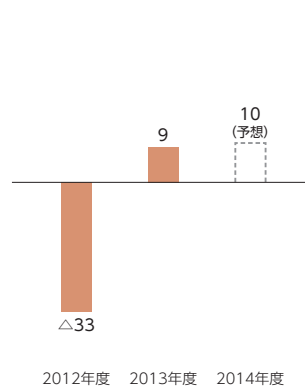
## フィルム・シート



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



### 主な事業

- 包装フィルム
- 電子・光学用フィルム
- 太陽電池用シート

### 概況

包装フィルムは、今年度初めに実施した販売価格の改定及び国内市場の回復傾向に伴う増販により増益となりました。

電子・光学用フィルムは、スマートフォンを始めとした高付加価値分野における需要拡大及び円安効果により収益を拡大しております。

太陽電池用シートは、厳しい事業環境ではあるものの、国内を中心に市場が伸長したこと、また新製品の拡販、更にはコスト削減努力により増益となりました。

## 社会貢献に向けて ～自動車材料～

当社グループの製品は数多く自動車に用いられ、軽量化や安全性、燃費、意匠性の向上に役立っています。

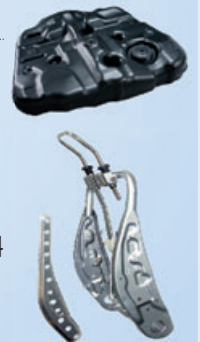
### 快適性向上

- ・ウレタンシートクッション
- ・高性能ブレーキパッド
- ・化学物質アレルギー対応
- ・内外装材料
- ・音響制御材料



### 軽量化材料

- ・PPコンパウンド
- ・エンブラ
- ・樹脂製燃料タンク
- ・金属樹脂一体成型部材
- ・繊維強化複合材料



### 高効率・高安全性

- ・セパレーター素材
- ・次世代リチウムイオン電池部材

### 燃費向上

- ・ギアオイル



### 意匠性

- ・PPコンパウンド
- ・コーティング材料



モビリティ

## 中国におけるEPT製造設備が完工

当社と中国石油化工股份有限公司(Sinopec社)との合弁会社である上海中石化三井弾性体有限公司が建設を進めていた、世界最大規模のEPT製造設備が今般、竣工致しました。

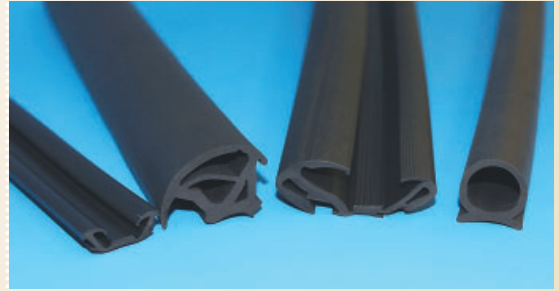
EPT(エチレン・プロピレン・ゴム)は、加工性、耐候性、耐熱・耐寒性、電気特性等に優れた合成ゴムであり、自動車部品、土木建築資材、電線ケーブル他に幅広く使用されています。中国では、自

動車産業が拡大し、社会インフラの整備が進められており、EPTの大幅な需要増が見込まれています。

間もなく開始する試運転を経て営業運転に入ります。拡大する需要を取り込み、EPT事業の更なる拡大を推し進めてまいります。



上海中石化三井弾性体有限公司



自動車のドア、窓のシール部品

ヘルスケア

## XDI大型プラント、建設着工(大牟田工場)

世界初となるXDI(キシレンジイソシアネート)大型プラントを2015年10月を目標に新設致します。

XDIは当社が世界に先駆けて事業化した世界オンリーワン製品であり、安全性の高い食品包装用接着剤、太陽電池やスマートフォン用の特殊インキ・コーティング原料、高耐久性の建材シーリング、安全性の高いマイクロカプセル等に使用されており、今後、異種材料からの切り替え等による更なる需要拡大が見込まれます。

また、メガネレンズ材料としても用いられ、高屈折率、クリアな視界、高い強度と自由なデザイン、耐久性の向上に役立っています。今後、ますます大きくなる「薄くて軽い」快適なメガネレンズへのニーズに貢献してまいります。

今回のプラント新設により、両事業の更なる拡大を推し進めてまいります。



XDIを使用した食品包装材料



XDIは高屈折率のメガネレンズ材料として役立っています

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

単位:億円

科目	2013年3月末	2014年3月末	増減	科目	2013年3月末	2014年3月末	増減
<b>流動資産</b>	<b>7,154</b>	<b>7,770</b>	<b>616</b>	<b>流動負債</b>	<b>4,939</b>	<b>5,071</b>	<b>132</b>
現金預金	465	720	255	有利子負債	1,858	1,913	55
受取手形・売掛金	2,984	2,965	△19	その他	3,081	3,158	77
棚卸資産	2,846	3,012	166	<b>固定負債</b>	<b>4,152</b>	<b>5,155</b>	<b>1,003</b>
その他	859	1,074	215	有利子負債	3,214	3,900	686
<b>固定資産</b>	<b>6,226</b>	<b>6,551</b>	<b>325</b>	その他	938	1,255	317
<b>有形固定資産</b>	<b>4,466</b>	<b>4,258</b>	<b>△208</b>	<b>負債合計</b>	<b>9,091</b>	<b>10,226</b>	<b>1,135</b>
建物・構築物	1,065	1,092	27	<b>株主資本</b>	<b>3,823</b>	<b>3,511</b>	<b>△312</b>
機械装置・運搬具	1,440	1,261	△179	資本金	1,251	1,251	0
土地	1,642	1,597	△45	資本剰余金	910	910	0
その他	319	308	△11	利益剰余金	1,805	1,493	△312
<b>無形固定資産</b>	<b>146</b>	<b>722</b>	<b>576</b>	自己株式	△143	△143	0
投資その他の資産	1,613	1,571	△42	<b>その他の包括利益累計額 … 5</b>	<b>△55</b>	<b>18</b>	<b>73</b>
投資有価証券	983	1,086	103	少数株主持分	521	568	47
その他	630	485	△145	<b>純資産合計</b>	<b>4,289</b>	<b>4,097</b>	<b>△192</b>
<b>資産合計</b>	<b>13,380</b>	<b>14,322</b>	<b>942</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>13,380</b>	<b>14,322</b>	<b>942</b>

## 連結損益計算書

単位:億円

科目	2012年度	2013年度	増減
<b>売上高 …… 1</b>	<b>14,062</b>	<b>15,660</b>	<b>1,598</b>
営業費用	14,019	15,411	1,392
<b>営業損益 …… 2</b>	<b>43</b>	<b>249</b>	<b>206</b>
営業外収益	168	98	△70
営業外費用	119	122	3
<b>経常損益</b>	<b>92</b>	<b>225</b>	<b>133</b>
特別利益	105	66	△39
<b>特別損失 …… 3</b>	<b>205</b>	<b>396</b>	<b>191</b>
<b>税金等調整前当期純損益</b>	<b>△8</b>	<b>△105</b>	<b>△97</b>
法人税等	68	114	46
<b>少数株主損益調整前当期純損益</b>	<b>△76</b>	<b>△219</b>	<b>△143</b>
少数株主損益	5	32	27
<b>当期純損益 …… 4</b>	<b>△81</b>	<b>△251</b>	<b>△170</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:億円

科目	2012年度	2013年度	増減
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー … 6</b>	<b>185</b>	<b>435</b>	<b>250</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー … 7</b>	<b>△581</b>	<b>△898</b>	<b>△317</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー … 7</b>	<b>273</b>	<b>669</b>	<b>396</b>
その他	27	56	29
現預金等増減	△96	262	358

## 連結包括利益計算書

単位:億円

科目	2012年度	2013年度	増減
少数株主損益調整前当期純損益	△76	△219	△143
その他の包括利益	296	321	25
<b>包括利益</b>	<b>220</b>	<b>102</b>	<b>△118</b>
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	154	51	△103
少数株主に係る包括利益	66	51	△15

## 連結株主資本等変動計算書

単位:億円

	株主資本	その他の包括利益累計額	少数株主持分
<b>2013年3月末残高</b>	<b>3,823</b>	<b>△55</b>	<b>521</b>
<b>当期変動額</b>			
剰余金の配当	△60		
当期純損益	△251		
その他	△1	73	47
<b>当期変動額合計</b>	<b>△312</b>	<b>73</b>	<b>47</b>
<b>2014年3月末残高</b>	<b>3,511</b>	<b>18</b>	<b>568</b>

## POINT

### 1 売上高

基礎化学品事業における減販を、主に機能化学品事業の歯科材料事業譲受や機能樹脂事業の増販でカバーしたことや、ナフサなどの原燃料価格上昇や円安効果による販売価格上昇の影響などにより、売上高は増加しました。

### 2 営業損益

石化事業の交易条件が改善したことや、機能化学品事業及び機能樹脂事業の販売数量が増加したことなどにより、営業損益は増加しました。

### 3 特別損失

大型市況製品であるポリウレタン材料事業及びフェノール事業における事業再構築費用を計上しました。

### 4 当期純損益

営業利益及び経常利益は黒字を確保しましたが、特別損益、法人税等、少数株主利益を控除した当期純損益は赤字になりました。

### 5 その他の包括利益累計額

円安による為替換算調整の改善により、その他の包括利益累計額は改善しました。なお、本年度より退職給付に係る調整累計額を計上しております。

### 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

減価償却費の増加や運転資金の改善などの影響により、営業活動によるキャッシュ・フローは増加しました。

### 7 投資活動によるキャッシュ・フロー (財務活動含む)

歯科材料事業の譲受けに伴い、投資活動によるキャッシュ・フローが増加しています。なお、当該買収資金について、主として銀行借入など資金を調達したことにより、財務活動によるキャッシュ・フローが増加しています。



# 会社の概況・株式の状況

## ■ 会社の概況 (2014年3月31日現在)

商号 三井化学株式会社  
 本店所在地 東京都港区東新橋一丁目5番2号  
 資本金 125,053,116,199円  
 創立 1997年10月1日  
 従業員数 14,271人(連結)

## ■ 役員 (2014年6月24日現在)

### 取締役

(代)取締役社長執行役員 淡輪 敏  
 (代)取締役副社長執行役員 大村 康二  
 (代)取締役副社長執行役員 越部 実  
 取締役専務執行役員 久保 雅晴  
 取締役常務執行役員 諫山 滋  
 取締役常務執行役員 鮎川 彰雄  
 取締役常務執行役員 植木 健治  
 取締役 永井 多恵子  
 取締役 鈴木 芳夫

### 監査役

常勤監査役 岩淵 滋  
 常勤監査役 古賀 義徳  
 監査役 門脇 英晴  
 監査役 松田 博  
 監査役 関根 攻

(注) (代):代表取締役 (※):執行役員待遇嘱託

### 執行役員

社長 補佐 得丸 洋  
 (※)常務執行役員 大多和 保彦  
 常務執行役員 谷 和功  
 常務執行役員 生坂 敏行  
 常務執行役員 松尾 英喜  
 常務執行役員 石丸 裕康  
 執行役員 那和 保志  
 執行役員 池田 俊治  
 執行役員 田崎 幹雄  
 執行役員 小川 伸二  
 執行役員 市村 彰浩  
 執行役員 永松 茂樹  
 執行役員 飯田 司  
 執行役員 福田 伸  
 執行役員 志手 啓二  
 執行役員 西山 泰倫  
 執行役員 三沢 晃  
 執行役員 佐藤 幸一郎  
 執行役員 真野 純一  
 執行役員 星野 太  
 執行役員 下郡 孝義  
 (※)執行役員 マーティン ハーゼ

## ■ 株式の状況 (2014年3月31日現在)

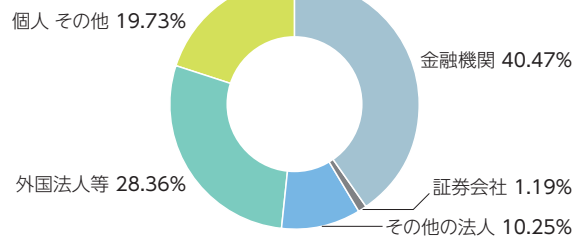
発行可能株式総数 3,000,000,000株  
 発行済株式総数 1,022,020,076株  
 株主総数 81,943人

### 大株主(上位10名)

氏名又は名称	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	68,756	6.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	57,807	5.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・東レ株式会社退職給付信託口)	37,425	3.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	25,644	2.50
株式会社三井住友銀行	21,946	2.14
三井物産株式会社	17,370	1.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・三井物産株式会社退職給付信託口)	17,370	1.69
三井住友海上火災保険株式会社	16,403	1.60
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	15,437	1.51
農林中央金庫	12,732	1.24

(注)当社は、20,788,036株の自己株式を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

### 所有者別株式分布状況

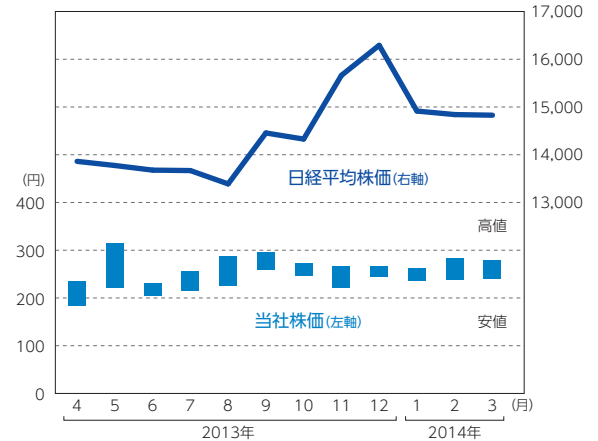


(注)「個人その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.03%)が含まれております。

## 株式事務のお知らせ

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
 基準日 定時株主総会については、3月31日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日  
 定時株主総会 6月  
 公告方法 電子公告  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号  
 (郵便物送付先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話お問合せ先) フリーダイヤル 0120-782-031  
 同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店  
 単元株式数 1,000株  
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部【証券コード:4183】

### 株価推移



## IRサイトのご案内

決算短信など最新の企業情報につきましては、  
 当社IRサイトでご覧いただけます。

三井化学 IR

検索

<http://jp.mitsuichem.com/ir/>



## ◎第17期定時株主総会の決議結果について

6月24日に開催された当社第17期定時株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト、  
<http://jp.mitsuichem.com/ir/library/notice/index.htm> に掲載しておりますので、ご参照ください。

※本資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。



〒105-7117 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター  
 TEL 03-6253-2100 FAX 03-6253-4245 URL <http://jp.mitsuichem.com/>

